

ほうでえ～

ありゃ～のう

# 周防大島町の話題

## 地域で支えあうボランティアの輪を

ボランティアとして地域で介護予防活動や生活支援サービスの活動をしていただける方を養成しようと、2月19日から約1カ月間「介護予防・生活支援担い手養成講座」が実施されました。

これは、高齢化の進行や高齢者世帯が増加する中で、誰もが住み慣れた地域や家庭で安心して暮らしていただけるように、介護予防や生活支援の知識を深めてもらおうと社会福祉協議会が企画したもので、計4回の講座が開かれました。

講座では、高齢者を支援するにあたっての心構えや注意点をはじめ、高齢者の特性や認知症に関することなど様々な講義が行われ、今後、地域内での支え合いはますます必要になってくることから、受講された皆さんは熱心に聴講されました。

「高齢者の特性をよく知って対応することが大切」と講義にあたられた大島郡医師会長の嶋元徹先生



最終日には3回以上受講された62名の方へ修了証が交付されました



## 白木半島の地域振興を考える

3月4日、沖家室島において「白木半島地区におけるやまぐち元気生活圏の進展に向けて」と題して、明治大学教授の小田切徳美先生の講演会が行われました。これは、地域振興を目的に、同地区でコミュニティ協議会の設立を目指している準備委員会の取り組みの一助にと、(一財)地域活性化センターが開いたもので、地域住民ら約100名が参加しました。

講演では農山村の現状を踏まえ、地域資源の活用などでの地域再生や近年の田園回帰の流れに対する住民主導の空き家利用や仕事の創出など、全国の事例を紹介。地域の抱える問題を自分たちの問題として捉え、具体的に可能性を展望することが求められることなどが提起されました。



▶「前向きで輝いている地域は地域づくりの好循環を生んでいる」と小田切先生

▶テープカットとくす玉開きで初荷を祝いました



## ゆめほっぺ出荷はじまる

ゆめほっぺの選果が3月15日、久賀のJA山口大島柑橘選果場で始まりました。

ゆめほっぺの品種名はせとみで、せとみの中でも糖度13・5度以上、酸度1・35%以下のものをゆめほっぺとして出荷しており「やまぐちブランド」として登録されています。

今年は裏年で出荷量220トン(せとみ含む)と昨年よりやや少なくなる見込みですが、生産者の努力により例年並みの品質に仕上がっており、主に県内や京阪神方面の市場に出荷されます。



◀一つ一つ丁寧に箱詰めされたゆめほっぺ